

佐賀県研究成果情報（平成 22 年度）

ニホンナシ「幸水」の不織布製ポットを利用した大苗育成における台木の違いによる樹体生育への影響					
〔要約〕ニホンナシ「 <u>幸水</u> 」の一年生樹を不織布製ポットで一年間育成する場合、 <u>マンシュウマメナシ</u> を台木に用いることで生育が促進される。					
果樹試験場・落葉果樹研究担当			連絡先		0952-73-2275 kajushiken@pref.lg.jp
部会名	果樹	専門	栽培	対象	ナシ

〔背景・ねらい〕

高樹齢化によるナシの生産性低下が問題となる中、県内では改植を進めるために、未収益期間の短縮と栽培管理の容易化を目的とした、不織布製ポットによる大苗育成が取り組まれている。そこで、より生育の優れた大苗を確保するため、台木の種類の違いによる樹体生育への影響を明らかとする。

〔成果の内容・特徴〕

1. 「幸水」の1年生苗を不織布製ポットで1年間育成した場合、マンシュウマメナシ台を用いることで、ヤマナシ台よりも新梢長が長くなる（図1、2）。
2. マンシュウマメナシ台を用いることで、ヤマナシ台よりも地上部および地下部の乾物重が大きくなる。また、根の分岐が多く2mm以下の細根量も多くなる（表1、図3、4）。
3. 1年間育成後の幹周で差はないが、育成後の台木周はマンシュウマメナシ台がヤマナシ台よりも大きくなる（表2）。

〔成果の活用面・留意点〕

1. 本成果で使用した不織布製ポットは、防根シート90cm×90cmを箱型に折った製品であり、ポット内の培土量は約25Lである。
2. 本成果で利用した苗は、ポットへの植付け時に地面から100cmの位置で切り返し、主幹部から発生した新梢のうち2本を主枝候補枝として誘引を行い育成した。
3. 同一品種を不織布製ポットで育成した場合、ポットの容量が20～40Lでは培土量が多いほど苗の生育量が大きくなる。

[具体的データ]

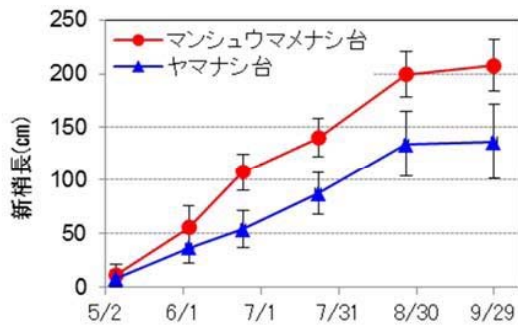


図1 台木の違いが不織布製ポットで育成した「幸水」の新梢長に及ぼす影響



図2 右：マンシュウマメナシ台
左：ヤマナシ台

表1 台木の違いが不織布製ポットで育成した「幸水」の乾物重に及ぼす影響

品種	地上部		地下部			
	新梢	主幹	10mm以上	5~10mm	2~5mm	2mm以下
マンシュウマメナシ台	210.5g	169.6g	94.2g	19.2g	16.0g	37.8g
ヤマナシ台	94.4g	139.2g	62.2g	10.2g	10.6g	18.0g

※10月2日に各部位を解体し、風乾後調査



図3 育成後のマンシュウマメナシ台の根



図4 育成後のヤマナシ台の根

表2 台木の違いが不織布製ポットで育成した「幸水」の幹周および台木周に及ぼす影響

品種	幹周		台木周	
	2月8日	10月20日	2月8日	10月20日
マンシュウマメナシ台	5.65cm	8.00cm	7.95cm	10.25cm
ヤマナシ台	5.95cm	7.95cm	7.50cm	8.80cm
有意差	N.S	N.S	N.S	*

※幹周は接木部より10cm上、台木周は接ぎ木部より5cm下を調査

[その他]

研究課題名：ナシの改植に伴う環境負荷軽減のための画期的な肥培および土壌管理技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2006~2010年度

研究担当者：加藤恵、稲富和弘、児玉龍彦、貝原洋平